

北京のアウトドア体験

北京事務所

はじめに

近年、中国の若者の間では、旅行社を通さず、SNS（交流サイト）を利用して同行者を募集し、発起人がバスやホテルの手配、案内などをする「自助型旅行」が流行っています。中には、チベットや雲南巡りなど一週間ほどの長いものもあれば、週末を利用して郊外で登山やトレッキングを行う日帰りツアーも多いです。

先日、北京近郊で日帰りの登山活動に参加しましたので、その様子をご報告します。

北京の登山愛好家人気の山へ

その日の活動は、北京郊外の延慶県(観光地として有名な万里の長城「発達嶺」近辺)の「燕羽山 (yanyushan)」を登り、下山後、麓の「柳溝村」で「豆腐宴」を食べることでした。



雄大な燕羽山の風景

燕羽山は市内から 90 キロほどの場所にあり、海拔が 1,278 メートル、北京の登山愛好家にとって「入門編」として有名な山です。ちなみに、その名は、山の形が燕の羽根に似ていることに由来すると言われています。また、発音が「艶遇 (yanyu)」(美人との出会い)と同じであり、行けば運命の人に出会えるという期待を抱えて行く若者が多いようです。

地方出身の若者に人気のツアー

当日朝 7 時半、薄いスモッグの中、集合場所についてみると、既に 10 台以上の大型バスがずらりと並んでいました。バスはそれぞれ異なるグループによって手配されており、ルートも目的地も違います。参加者は大体 3、4 日間前から前日までに申し込みをしています。バス 1 台あたりに 50 名が乗るとしたら、ここだけでも約 500 名の参加者がいる計算となります。集合場所はほかにもあるので、このような旅行は大きなニーズがあることがうかがえます。



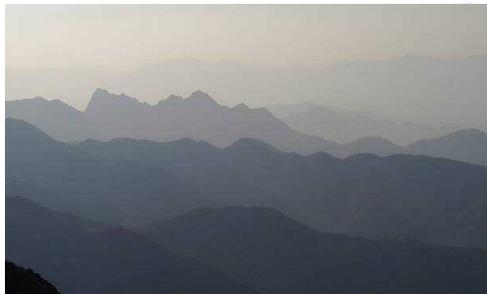
バスが並ぶツアーの集合場所

8 時前に、参加者が揃った時点でバスは出発しました。途中、車内で一人ずつ簡単な自己紹介をしたり、勇気のある方が歌を披露したり、ジョークを飛ばしたりした後、雰囲気

が一気に和んできました。参加者は20、30代の若者が3分の2以上を占めており、最も年配の方は58歳です。北京出身の方は5、6名しかおらず、ほかは全部地方から来て北京で働いている若者です。参加費の支払いも車内で行われました。参加費はバス料金と入山料を合わせて一人70元(日本円で約1,120円※)であり、会員カードを持っている人は、更に10元安くなります。

いよいよ目的地へ到着

2時間半後、目的地に到着しました。その日は、風が穏やかで、陽気に恵まれ、市内と比べてスモッグがほとんどなかったため、思わず深呼吸したくなりました。初冬のこの時期、畑には作物がなく、木々の葉っぱが落ち、草々も枯れているので、緑はあまり見られませんが、広々とした大地、延々とつながる山々、そして高い青空を眺めるだけで、気分が晴れ晴れしくなりました。



山々の稜線がくっきり

集合写真を撮った後、4時間のトレッキングがスタート。参加者は登山経験のある方が多く、バッグ、杖、登山シューズなど専用のアウトドアグッズを所持しています。近年、中国でもアウトドアの愛好家が増えています。関連商品の市場ポテンシャルは、日本のメーカーにとっても魅力的だと思います。

初対面の方ばかりですが、みんなはおしゃべりやジョークを話しながら山登りを楽しんでいました。途中、山頂付近で簡単な食べ物を食べて、20分ほど休憩しました。また、遠くの山々の稜線がくっきり見える絶景に魅了され、みんなで携帯やカメラを取り出して写真を撮りました。

午後2時すぎ、4時間10数キロの山歩きコースを終わらせた後、麓の村で地元料理「豆腐宴」を堪能しました。豆腐だけでなく、肉や野菜もあり、ホカホカの郷土料理は運動後のエネルギー補給に最高でした。料金は1人26元(約416円)で、思ったよりも安かったです。



地元料理の「豆腐宴」



食堂や民宿が立ち並ぶ「柳溝村」

田舎料理を満喫した後、市場でお土産を買ったり、散策したりしました。村の家々は全部統一した様式で作られており、食堂や民宿を経営する人がたくさんいました。今日、中国の都市近郊にある農村は、このような旅行ビジネスによってかなりの収入を得ていると思われます。4時頃市内に向かって出発

し、6時に市内の家に到着しました。

おわりに

若者が期待していた「艶遇」は、あまりなかったようですが、新鮮な空気やおいしい料理を堪能でき、運動にもなったので、みんな満足度が高かったようです。デスクワークが多く、友達の少ない都会で働く若者にとって、こうした息抜きの間も必要ではないかと思えます。

(高調査員)

※日本円の金額は、1元16円で計算。

